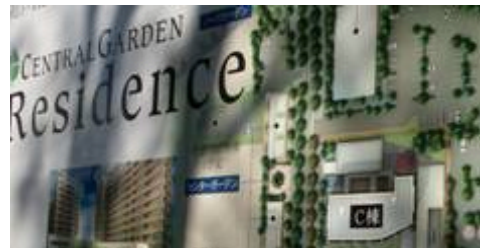


池下から今池、そして千種

写真は池下の高見町の再開発現場である。一帯にはかつてJR宿舎があり、わたしも旧国鉄時代に3年ほどアパートに住んだことがある。ここから高見小学校に通ったころが懐かしい。「セントラル・ガーデン」と名づけられ、かなり広い敷地に三菱地所のマンションやショッピング・センターが建設される。都心に近い大規模な複合型再開発である。国鉄「分割・民営化」から最近の「都市再生」へと、あらためて時代の変化を感じさせられる。



下の写真は千種駅南地区の市街地再開発事業により建設された高層マンションなどである。JRと地下鉄の駅に隣接しており、「都心居住」を推進するものだ。高齢者向けの介護施設や若者向けの巨大店舗も併設され、これも複合型再開発となっている。この超高層建築物を見ていると、賑わいのある「まち」とは異質なものを感じる。もう一つの写真は、千種駅の近くにある「高牟神社」である。かつて千種の鉄道官舎に住んでいたとき、正月などによく行った。たくさんのお店で賑わっていた。いま見ても、なかなか風情があり、都心の貴重な空間といえる。ここから今池に向けて歩くと、独特の「繁華街」の雰囲気になってくる。昔を振り返りながら、「現代」を見つめることができた。



(2006年1月19日 記)